

長=田中清高 教育長 阿久比町教育委員会=委=藤井一貴 指導主事 中川学 教育部長

組=知教労 佐田京美 委員長(大府中) 岩澤弘之 副委員長(鬼崎中) 市野司 副委員長(西部中)

1 給特法「改正」に伴う超勤上限規制について

1) 勤務時間の客観的・正確な把握について

組 超勤 45 時間の上限規制について。正確に、客観的に勤務時間を把握することがまだできていないのではないかと。

委 タイムカードを含めどんな方法が良いか検討していたが、できるだけ効率の良い方法は C 4 t h なのではないかと考える。

組 休憩が取れたものとして把握されている。土日に出勤しても記録していない人もいる。それでは 20 時間ほど少なめに把握されていることになる。

長 阿久比町役場も出勤簿に印鑑だったのが、出退勤システムを取り入れた。教員も同じようなシステムになったほうがよいと思っていた。

組 正確に把握するためには労安体制を整え、教員の勤務時間管理の意識を高めることが必要。機械を導入しただけでは良くならない。

組 子どもたちが学校にいる間は休憩は取れない。昼放課も何かあったら駆け付けねばならない。それは「手待ち時間」という「勤務」として県教委も認めている。

長 学校は普通の官公庁とは条件が違う。学校現場がどうしているのか正確なところは把握していないので、学校には確認していきたい。

委 草木小は休憩分を抜けるようなシートを導入した。従来のシートを使う学校については教頭・校長に正確に把握するよう話はしてある。

2) 超過勤務時間の上限の遵守について

組 全員を 4 5 時間以下にさせるのは並大抵のことではない。部活動の学校からの切り離しについての見通しは立っているのか。

委 切り離しの方向に行かざるを得ないのは認識しているが、今すぐに切り離せるかということ、社会体育があるものもあるし、ないものもある。家庭の経済状況も異なる。

組 何らかの具体的な動きや計画はあるか。

長 外部指導員が入っている部活もある。引率もできるようになった。自身も少年サッカーに携わったことがあり、阿中の指導員もやっていた。

委 外部指導員は継続性というところも大切になる。保護者にやってもらうのは継続性が難しい。

組 学校単位でなくなれば、2つの学校を合わせてやれるということもある。

組 部活指導員と教員の顧問の、部活に対する重みや意見の食い違いもある。平日と土日の指導が異なりトラブルになったこともあった。

組 小学校部活の状況は？

委 草木小が金管をやめる。東部小は金管が残っている。陸上大会は来年度から廃止する。

組 東部小も超勤者が多い。東部小はいつ部活をやめるのかということを示してほしい。中学校の朝部の状況は？

委 夏の下校が遅い時期はない。県のガイドラインは朝部活はない方向で、と出ているが、活動時間を確保するためであって、活動時間を長くするために朝部をやっているわけではない。

組 県ガイドラインには、朝部活はハンマー投げ等の特殊な事情がある場合のみに限ると書いてある。冬は朝部活をやるところが近隣市町にも多いが、夕方に活動できないから朝やるというのは「特殊な事情」に当たらない。80 時間越えの職員が多くいる中で一番切りやすい朝部をやめるのはすぐにできる。冬は部活をやらない「シーズンオフ」ということにすれば良い。

委 話はしていく。

組 月 45 時間というのをシミュレーションすると、朝 8 時に学校に来て、休憩は取れずに 18 時に帰り、土日一切出勤しなくても月 45 時間超過になる。少なくとも朝の勤務開始前の活動はやめていくというのは当然の方向だ。部活以外には、どれからやめていくという具体的な計画はないか。

委 小学校のプールの皆泳指導は今年からなしにする申し合わせはしていた。新転任者の「阿久比を知る会」もなくした。「cocoo」というシステムを使い、音声で欠席連絡ができる。今年はコロナもあって急な連絡をしなければならないときに、相手が既読かどうかもわかる。

組 朝部以外も、朝の活動をやめてほしい。あいさつ運動は勤務時間前に子どもや保護者を集めてやらなくても、普段の生活の中でできる。

委 地域とのつながりや幼保小中一貫でやっている部分もあり、割り振り変更で対応している。一斉にやる中で普段のあいさつにつながる面もある。

組 コロナで、今まであったものがなくなり、なくてもいいものが明らかになった。職場体験は今年はなくなり、なくてもいいことが分かった。キャリアパスポートが導入されようとしているが、知多地区で統一形式を作るという動きも聞く。各学校で負担のないものを作るという方向で良いか。

委 今年度中にファイルを作るよう言われたが、コロナもあり動けていない。「せねばならぬ」となったら考えるが、これまでの総合でやってきたものが使えるならそれでいいとは思う。

組 「せねばならぬ」と命令する権限はどこにもないはずだ。

組 学校訪問も来年度以降、従来の形式をやめるということを教育長会で話し合っしてほしい。普通の学校を見て回って改善点があれば指摘するというのが教育行政の本来の仕事。指導案や全体会で「お客様をお迎えする」という従来の学校訪問が今年度なくなっても、教育活動は滞りなく回っている。

長 知教協の中でそういう話題になったら話ができると思う。

組 「若あゆ日記」や「知多の友」、「数学のリーグ」等、任意団体の関わる出版物の編集作業に公務出張で行くのが常態化している。コロナで授業が最優先なのに補欠を出して行っている。校長を通して出張を禁止すべき。公務員としての給与が発生する勤務時間内に授業を離れて、任意団体が作る出版物の作成業務をさせるのは根拠がない。土日や夜にやればよい。「若あゆ日記」は丸一日授業を放棄して日記帳を作っている。やめるべきだ。

委 ご意見は伺うが、任意団体に対しては教育委員会としては何も言えない。

組 任意団体が出版をやるのは自由だが、派遣の申請に対して断るのは校長、職員の勤務を管理するのは教育委員会だ。「任意団体が本を作るのを手伝いに行かせている」よりも、「授業のほうが大それた」というのはコロナ禍で明らかになった。多忙化解消の観点からもそのような出張をやれる時期は終わった。

組 就学時検診がずっと教員の仕事になっている。武豊町は学校でやるのをやめた。教員の仕事は何かという点からすると、これも真っ先に外せる業務ではないか。

長 会場の問題や役場の職員でどれだけやれるのかという点も限界がある。

組 なぜ武豊ができたのかというと比較的人数が少ないからでは。半田では難しい。阿久比はやりやすい方では。

長 武豊の話も聞いてみる。

組 日直業務について。管理職は約 40 時間超過、職員は約 70 時間超過。職員が交代で日直を回しているが、管理職がやるべきだ。管理職に業務を置き換え、職員の業務を減らすことはできるのでは。

委 管理職が回るのが本来の日直の仕事だと思うが、各学校の実情に合わせ協力してもらっている。

組 「実情」は客観的記録からも、80 時間越えの人が日直をし、管理職は帰っている。なぜこんなに単純なマネジメントができないのか。少なくとも校長・教頭も日直のループに入れるべきだ。

委 話は管理職に伝える。

2 コロナ禍での多忙化解消・安全な学校について

組 コロナで学級の定員を減らさないと安全でないことが分かった。OECD で日本の財政規模で 40 人学級をやっている国はどこにもない。名古屋市議会も少人数学級を要望する決議を国に挙げた。

長 少人数のほうが負担も軽くなりいいと思うが、阿久比町は施設が足りない。中学校の増築予定はしているが、40 人の定数前提での増築。今の中 3 が 240 人程度。ピークが今の小 4 で 400 人。10 年後であれば少人数学級もできるかもしれない。町としてハードの面はやらねばならないが、人的なことは国や県がやっていく。支援員は町が最大限確保している。小学校も特別支援級が増えており空きがない。

組 我々も自治体単位でやれるとは思っていない。日本全体の教育の流れとして少人数学級を求めている。

組 タブレットを導入するなら、専門の人員を学校に配置し常駐させてほしい。

委 台数が増えるから人を増やす必要性はある。

3. 4. 人権尊重の推進・その他

組 ハラスメント防止指針は全職員に配ったか。

委 確認はしていないが、ハラスメントは絶対にいけないことだ。教頭会・校長会で伝えている。

組 「4 役」は条例上規定がない。県教委も教務・校務は他の主任と同等であり管理職ではないと言っている。「回覧」や机の配置も含め特別扱いをやるべき。30 代後半の教務・校務からのハラスメントをよく耳にする。校務主任は教諭として本来やるべき授業時数を増やし、学校の修繕は町の施設だから行政でやってほしい。

以上